

第 14 期事業報告

自:2018 年 7 月 1 日

至:2019 年 6 月 30 日

1. 事業の概況

公益財団法人日本バレーボール協会から独立法人化して 14 年目を迎えた一般社団法人日本バレーボールリーグ機構は今年度、新たな一步を踏み出しました。主要事業であるVリーグ大会について、これまでの運営方式を一新し、『新生 V.LEAGUE』として、「スポーツで稼ぎその収益をスポーツに還元する」システムを実現すべくその歩みを始めました。

新生 V.LEAGUE では大会の開催権をチームに譲渡し、開催権を持った各チームがそれぞれのホームタウンに根差した活動を行うとともに、ファンファーストな大会運営と趣向を凝らした施策でファンの拡大に努めました。『WE NEVER DROP THE BALL』という新生 V.LEAGUE の SPIRIT (精神)のもと、「Vリーグ」と「ファン」と「地域」とを繋ぎ、バレーボールの魅力をより多くの人に伝えるとともにその価値を高め、V.LEAGUE が日本のトップアリーナスポーツとなり、世界一のバレーボールリーグとなることを目指すべく、今年度はそのスタートをきることができました。

以下、第 14 期事業年度の概況を取りまとめご報告致します。

2018 年 9 月 26 日に開催した第 13 回定時社員総会において、理事・監事の任期満了に伴い改選となり、新たに、理事 15 名と監事 2 名を選任いたしました。社員総会で選任された理事並びに監事により開催した第 14 期第 1 回理事会において嶋岡健治会長、三好徹副会長の再任と柏木斉副会長の新任を決定しました。尚、2019 年 6 月 29 日付で八田茂理事が一身上の都合により辞任し、以降は理事 14 名の体制となりました。

また、同定時社員総会において、株式会社信州スポーツプロモーション、株式会社 VOREAS、NPO 法人 NBK dreamers、NPO 法人ヴィアティン三重スポーツクラブ、廣田観光株式会社、株式会社プレステージ・インターナショナル、株式会社姫路ヴィクトリーナ、株式会社群馬銀行の 8 法人の入社承認とフォレストリーヴズ熊本の退社報告を行い、当機構の法人数は計 44 法人(1 団体・46 チーム)となりました。

2019 年 5 月 1 日には公益財団法人日本バレーボール協会加盟団体への加盟が承認され、バレーボール界のより一層の発展のためのより緊密な連携とチケティングやマーケティング、プロモーションなどの共同事業を展開して参ります。

2018-19V.LEAGUE は各カテゴリーのリーグ名称も改め、男子大会(MEN)はトップリーグから DIVISION1、DIVISION2、DIVISION3 の3リーグ制、女子大会(WOMEN)は DIVISION1、DIVISION2 の 2 リーグ制での開催となりました。V.LEAGUE DIVISION1 は MEN が 10 チームの参加により 2019 年 10 月 26 日に大田区総合体育館(東京都大田区)にて開幕し、3回戦総当たりによる V・レギュラーラウンドとその上位 6 チームによる V・ファイナルステージを行いました。ファイナル 6・1 位のパナソニックパンサーズとファイナル 3 を勝ち上がった JT サンダーズによるファイナルは 2019 年 4 月 7 日に武田テバオーシャンアリーナ(愛知県名古屋市)にて、グランドファイナルは 4 月 14 日に武蔵の森総合スポーツプラザ(東京都調布市)にて開催し、パナソニックパンサーズが新生 V.LEAGUE 初代王者、前身の V・プレミアリーグから数えて 2 年連続 6 回目の優勝を飾りました。WOMEN は 2018-19 シーズンよりカンファレンス制を導入し、11 チームの参加による V・レギュラーラウンドがイースタンカンファレンスは 6 チームによる 2 回総当たり、ウエスタンカンファレンスは 5 チームによる 2 回戦総当たりと両カンファレンス間の交流戦を 2 回戦方式で行いました。2018 年 11 月 3 日にイースタンカンファレンスは駒沢オリンピック公園総合運動場体育館(東京都世田谷区)とナイスアリーナ(秋田県由利本荘市)にて、ウエスタンカンファレンスは駒沢オリンピック公園総合運動場体育館と丸善インテックアリーナ大阪(大阪府大阪市)でそれぞれ開幕し、両カ

ンファレンスの上位 4 チームの計 8 チームがV・ファイナルステージに進みました。また、V・ファイナルステージに進めなかった下位 3 チームはV・チャレンジステージに進むことになりました。ファイナル8・1位の久光製薬スプリングスとファイナル3を勝ち上がった東レアローズによるファイナルは 4 月 6 日に武田テバオーシャンアリーナにて、グランドファイナルは 4 月 13 日に武蔵の森総合スポーツプラザにて開催し、久光製薬スプリングスが前身のV・プレミアリーグから数えて 2 年連続 7 回目の優勝に輝きました。

DIVISION2 は MEN が9チームによる 3 回戦総当たり方式で、WOMEN は 10 チームによる 2 回戦総当たり方式のV・レギュラーラウンドとその上位 6 チームによる 1 回戦総当たり方式のV・ファイナルステージにて開催し、MEN は富士通カワサキレッドスピリッツが、WOMEN はヴィクトリーナ姫路がそれぞれ DIVISION2 の初代優勝チームとなりました。また、ヴィクトリーナ姫路はこの優勝により、2019-20 シーズンからの DIVISION1 昇格が決まりました。DIVISION3 は MEN のみ 6 チームによる4回戦総当たり方式にて開催し、ヴォレアス北海道が初代優勝チームに輝きました。

V・チャレンジマッチは 2019 年 3 月 30 日、31 日に川崎市とどろきアリーナ(神奈川県川崎市)にて開催し、DIVISION1 WOMEN・11 位の PFU ブルーキャッツと DIVISION2・2 位の JA ぎふリオレーナが2戦方式で対戦しました。結果は PFU が 2 勝し、DIVISION1 残留を決めました。尚、MEN は DIVISION2 上位チームにS1ライセンスを保有するチームが無かったため、今シーズンは開催することなく最終順位が確定しました。

2016/17 シーズンから契約したスポーツのライブストリーミングサービス・DAZN による放送は DIVISION1 の一部の試合を除く全試合がライブ配信されました。また、今シーズンよりVリーグ公式動画配信サービス『V.TV』を開設し、DAZN で放送の無かった DIVISION1 の 22 試合を

『DAZN on V.TV』としてライブ配信したほか、DIVISION3 の一部試合のライブ配信や今シーズンの V.LEAGUE 大会のオンデマンド配信などを積極的に行いました。DIVISION1 ではビデオ判定によるチャレンジシステムの採用やタラフレックスの敷設及び持ち込みビジョンの設置なども継続して行い、トップリーグに相応しい、競技・観戦環境の整備に取り組みました。また、新生 V.LEAGUE の開幕にあたっては、持ち回りの会場演出ツールの一新を図ったほか、V.LEAGUE テーマソングや会場 BGM もリニューアルやブイリーに続きオフィシャルマスコットキャラクター『ブイきち』を製作するなど、新リーグのロゴマークやポリシーの浸透を図りました。

また、2016/17 シーズンに復活し、3年目を迎えた『V.LEAGUE オールスターゲーム』を、2019 年 4 月 20 日、21 日に浦安市総合体育館(千葉県浦安市)にて開催しました。20 日夜には会場近隣のオリエンタルホテル東京ベイ(千葉県浦安市)にて『2018-19V.LEAGUE 感謝祭』を行いました。シーズンを通じてご支援いただいた、スポンサー、関係団体、関係協力者に選手やスタッフから感謝の意を伝えるとともに、交流を深めました。

Vリーグ機構の活動成果を経営数値で見ますと、収入面では、チーム数の増加等による試合数の増加による入場料収入、チーム数の増加及び年会費額の見直しによる年会費等は増加しましたが、大会開催譲渡金額の見直し等による影響がありまして、収入総額は 1,039,311 千円(対前期 173,905 千円増…120.1%)となりました。また費用面では、チーム数の増加による試合数の増加により、チーム旅費、大会役員旅費の増加、大型LEDビジョン、タラフレックスの運用費用が増加したことにより、費用総額は 1,101,970 千円(対前期 250,102 千円増…129.4%)となりました。経常利益は▲62,577 千円(対前期 ▲77,115 千円減)、当期純利益は▲62,647 千円(対前期▲77,115 円減)となりました。

以下、事業内容を、詳述致します。

2. 事業内容

(1)V.LEAGUE DIVISION1

2018-19シーズンのMENは10チーム3回戦総当たりリーグ戦のV・レギュラーラウンドとV・レギュラーラウンド上位6チームによるV・ファイナルステージ(ファイナル6、ファイナル3、ファイナル)の競技形式で、V・レギュラーラウンド135試合、V・ファイナルステージ19試合の計154試合を実施しました。男女合計で301試合を延べ190会場(女子95会場、男子95会場)にて開催しました。

WOMENはV・レギュラーラウンドは11チーム2カンファレンス制を導入し、各カンファレンス2回戦総当たりと交流戦を2回戦方式で行いました。各カンファレンス上位4チームの全8チームによるV・ファイナルステージ(ファイナル8、ファイナル3、ファイナル)、ウエスタンカンファレンス下位1チームとイースタンカンファレンス下位2チームの全3チームによるV・チャレンジステージで順位を決める方式でV・レギュラーラウンド110試合、V・ファイナルステージ32試合、V・チャレンジステージ3試合、V・チャレンジマッチ2試合の計147試合を実施しました。

観戦入場者数を見ると、大会合計で360,469人(対前年69,705人増)、MENは174,516人(対前年16,093人増)、WOMENは185,953人(対前年53,612人増)、となりました。1開催日平均では、MENが2,053人(対前年678人減)、WOMENが2,296人(対前年67人減)でした。

(2)V.LEAGUE DIVISION2・3

2018-19シーズンのV.LEAGUE DIVISION2 MENは、参加9チームによる3回戦総当たりリーグ戦のV・レギュラーラウンドの競技形式で、全108試合を実施しました。WOMENは参加10チームによる2回戦総当たりのV・レギュラーラウンドと上位6チームによるV・ファイナルステージの競技形式で、V・レギュラーラウンド90試合、V・ファイナルラウンド15試合の計105試合を実施しました。男女合計で213試合を延べ119会場(MEN59会場、WOMEN60会場)にて開催しました。

観戦入場者数を見ると、合計で76,990人(対前年4,976人減)、MENは31,946人(対前年649人減)、WOMENは45,044人(対前年4,327人減)、となりました。1開催日平均では、MENが541人(対前年200人減)、WOMENが751人(対前年483人減)でした。

V.LEAGUE DIVISION3は、MENを6チームによる4回戦総当たりリーグ戦のV・レギュラーラウンドの競技形式で計60試合を延べ30会場にて開催しました。

観戦入場者数を見ると、23,021人(対前年1,540人減)、1開催日平均では、767人(対前年153人増)でした。

*テレビ放送に関しては、DAZNによりDIVISION1合計で279試合がライブ配信され、DAZNにて配信されない22試合を「DAZN on V.TV」として、ライブ配信を行いました。また、DIVISION1の全試合映像を試合開催1か月後よりV.TVにてオンデマンド配信を行いました。DIVISION2の113試合は、試合開催3日後よりV.TVにてオンデマンド配信を行いました。DIVISION3の4試合はV.TVにてライブ配信、28試合は試合開催3日後よりV.TVにてオンデマンド配信を行いました。また、ファイナル3以降の前日記者会見、Vリーグオールスターゲーム(全4試合)もライブ配信されました。また、BS(NHK BS-1、BSフジ)、CS(GAORA)、地上波(ローカル)のテレビ放送も昨年同様放送されました。

(3)その他

①2018 V・サマーリーグ女子大会

DIVISION1 (10 チーム)、DIVISION2(10 チーム)の計 20 チーム、東西2ヶ所に分かれ西部大会は 2018 年 6 月 29 日～7 月 1 日にスカイホール豊田(愛知県豊田市)にて 11 チームが参加して開催しました。東部大会は 7 月 6 日～7 月 8 日に酒田市国体記念体育館(山形県酒田市)にて 9 チームが参加して開催しました。

西部大会は岡山シーガルズが初優勝し、観戦入場者数は3日間で 3,156 名でした。東部大会は日立リヴァーレが優勝し、観戦入場者数は3日間で 1,615 名でした。また、大会期間中に印象に残る活躍をし、かつ将来性の高い選手に贈られる「フレッシュスター賞」には各 DIVISION から東西それぞれ 1 名ずつ計 4 名が選ばれました。

②2018 アジアカラブ選手権大会

2018 アジアカラブ選手権大会は、WOMEN は 2018 年 7 月 11 日～18 日にオスケメン／カザフスタン(参加 9 チーム)にて、MEN は 7 月 30 日～8 月 6 日にネピドー／ミャンマー(参加 13 チーム)にて開催され、WOMEN は NEC レッドロケッツ、MEN は東レが日本代表として派遣されました。成績はNECが準優勝、東レアローズが第 5 位という結果でした。

③2019 アジアカラブ選手権大会

2019 アジアカラブ選手権大会は、MEN は 2019 年 4 月 18 日～26 日に台北／チャイニーズタイペイ(参加 14 チーム)にて、WOMEN は 4 月 27 日～5 月 5 日に天津／中国(参加 10 チーム)にて開催され、MEN はパナソニックパンサーズ、WOMEN は久光製薬スプリングスが日本代表として派遣されました。成績はパナソニックが準優勝、久光製薬が第 3 位という結果でした。

(4)V.LEAGUE サマーフェスティバル 2018in お台場ビーチ

2018 年 7 月 22 日に FIVB ワールドツアーの会場(THE ODAIBA 2018 内「ビーチバレーボール」特設会場/東京都品川区)にて新リーグへ向けた PR 活動(公式テーマソング発表・公式使用球発表・ホームタウン発表)を含めた 2 人制ビーチバレーの試合を実施しました。

DIVISION1 MEN(9 チーム)、DIVISION2 MEN(3 チーム)の計 12 チームによる 2 人制 21 点制による 1 セットマッチで、4 チームによる 1 回戦総当たりのグループ戦後、各グループ 1 位によるトーナメント方式で実施致しました。優勝はパナソニックパンサーズ、観戦入場者数は 1,005 人でした。

(5)2018-19V.LEAGUE オールスターゲーム

2019 年 4 月 20 日に WOMEN を、21 日に MEN を浦安市運動公園総合体育館(千葉県浦安市)で開催しました。それぞれ第 1 試合が DIVISION2・3、第 2 試合が DIVISION1 で行いました。昨年同様、オールスターファン投票によって選出された 14 名+Vリーグ機構推薦選手 14 名の計 28 名の選手を 2 チームに編成しました。2 日間の入場者数は 3,532 名で、大いに盛り上がりました。ファン交流イベントとして写真撮影会や、地元ゆるキャラとダンス大会を実施し、浦安市内の小学生を対象にオールスターゲーム出場の女子選手によるバレーボール教室等を行い、ファンやご協力いただいた地域への交流活動も積極的に実施いたしました。

(6)2018-19V.LEAGUE 感謝祭

オールスターゲーム開催中 4 月 20 日夕方、シーズンを通じてお世話になったスポンサーの皆様、各都道府県バレーボール協会の皆様等に感謝の意を伝えると共にオールスター参加選手との交流を深める機会として「2018-19V.LEAGUE 感謝祭」をオリエンタルホテル東京ベイ(千葉県浦安市)にて開催しました。出席者は 2018-19V.LEAGUE 協賛社の皆様、都道府県バレーボール協会理事長、オールスター参加男女選手等約 230 名で大いに盛り上がりました。

(7)広報／プロモーション活動

①記者会見

2018-19 シーズンの開幕記者会見を男子が 10 月 9 日に愛知県名古屋市のおアシス 21「銀河の広場」にて、女子は、10 月 21 日に東京都港区・アクアシティお台場「アクアアリーナ」にて実施いたしました。

ファイナルを 2 週に分けたこともあり、4 月 5 日にファイナル名古屋大会前日記者会見を武田テバオーシャンアリーナ(愛知県名古屋市)で、4 月 12 日にはグランドファイナル前日記者会見を武蔵野の森総合スポーツプラザ(東京都調布市)にて行いました。

②会場 BGM リニューアル

□V.LEAGUE テーマソング/アンセム

V リーグの試合で選手が魅せる躍動感や力強さ、そして試合を通じて展開されるドラマを象徴するテーマソングとして「Black or White」を、またVリーグのシンボルとして、選手やVリーグに関わるすべての方々を讃えるアンセムとして「Repose」を新たに制作いたしました。共にテアトロ・ラッフィナートの下野ヒトシ氏がプロデュースしました。

□2018-19V.LEAGUE オフィシャルソング

BananaLemon(バナナレモン)の「Clap,Smile,Dance!」をオフィシャルソングに決定し、BGM として会場で選手たちの熱戦に彩りを添えました。また、バレーボールの動きを織り交ぜたダンスの振り付けで、選手を起用したイメージビデオも制作しました。ファン参加型のキャンペーンも実施し、特に若年層のVリーグ認知向上を狙ったアプローチを行いました。

③V.LEAGUE コラボレーション

□V.LEAGUE × GAORA

CS放送の「GAORA」との取り組みで DIVISION1 MEN&WOMEN のハイライト番組「VっとVリーグ」を放映しました。V・レギュラーラウンドはもちろん、ファイナルまでの注目カードをハイライトでお届けしました。放送は 2018 年 11 月～2019 年 4 月の期間で全 12 回<男女各1回/月>でした。

□V.LEAGUE × 少女ファイト

昨シーズンに続き、青年漫画雑誌イブニング(講談社)で連載中の人気バレーボール漫画「少女ファイト」とのコラボレーションにより、幅広い世代の読者に向け、普及促進を図りました。オールスターゲーム女子大会の副賞として作品内に登場できる「少女ファイト賞」が設けられ、今シーズンのオールスターゲームでは JT マーヴェラスの栗原

恵選手が受賞しました。

④新オフィシャルマスコットキャラクター誕生

新リーグ発足に伴い、新しいオフィシャルマスコットキャラクターを制作し、2018-19V.LEAGUE の開幕戦でお披露目を行いました。愛称はファンからの公募により「ブイきち」と名付けました。今後は「ブイリー」と共に、大会会場やイベント等でV.LEAGUE のPR に活躍します。

⑤プロモーション活動

□「公式ホームページ」の新サイト移行

新生 V.LEAGUE 開幕に伴い、2018 年 10 月 9 日よりホームページを新サイトへ移行しました。新サイトではビジュアルを大胆に変更し、ホームページで得られる情報はそのままにダイナミックなユーザーインターフェースに一新しました。今後もさらなる情報の充実・利便性の向上に努め、ファンの皆様にとって使いやすく、見やすいホームページ作りを進めていきます。

□公式SNS(Twitter、Facebook、Instagram、YouTube)

公式ホームページでは紹介しきれない情報や、一般報道では伝えられない選手関連情報などを紹介しています。写真や動画を使い、特に若年層や女性のファンの皆様にアプローチしていきます。様々な最新情報やアリーナ外でも楽しめるコンテンツの提供に努めています。

□Vリーグ公式アプリ

新生 V.LEAGUE の開幕に合わせて、集客施設価値向上ソリューションを活用したアプリの提供を開始しました。ファンの皆様が知りたい情報や、会場来場時に便利で楽しめる各種サービスを提供しています。具体的には、チームや選手、試合スタツツの情報やアリーナ内限定映像の配信、また、電子スタンプを活用し来場回数に応じたクーポンの発行など、試合の有無に関わらずファンの皆様とVリーグがつながる接点を提供します。

⑥映像配信

□オフィシャルブロードキャスティングパートナー・DAZN

オフィシャルブロードキャスティングパートナー「DAZN」では、DIVISION1 の試合をライブ中継、また試合開催 7 日後まで見逃し配信を実施しました。臨場感のある映像と、経験豊富な解説者とともに、V.LEAGUE の面白さが体験できる配信を行っています。また、選手や監督の普段では見られない素顔や意外な一面を楽しんでいただけるようなコンテンツや、選手のスーパープレイのセレクション映像などを配信し、ファンの皆様にお届けしました。

□V.TV のオープン

V.LEAGUE の公式の動画配信サービスとして今シーズンより「V.TV」を開設しました。これまでのVリーグオンデマンドに代わり、V.LEAGUE の映像を活用し、収益を上げることでチーム、リーグに還元すること、V.LEAGUE ファンが自分の応援するチームや選手の映像をいつでも手軽に視聴できる環境を整えることを目的としています。今シーズンは DIVISION1、DIVISION3 の一部試合の LIVE 配信、DIVISION1 の全試合、DIVISION2、DIVISION3 の一

部試合をオンデマンド配信しました。今後は V.LEAGUE の試合だけでなく、国内他大会、海外試合などを配信し、バレーボール動画のポータルサイトを目指します。

(8) 社会貢献活動

① 日本骨髄バンク支援活動

Vリーグ機構では、社会貢献活動の一環として、2006/07 シーズンより公益財団法人日本骨髄バンクへの支援活動を行ってきました。2018-19 シーズンも全国各地の V.LEAGUE 大会の会場にてステッカーなどを配布しました。V.LEAGUE DIVISION1 ではコートエンドにバナーを設置したほか、LED ビジョンにてドナー登録を呼びかける映像を流し、DIVISION2・3 では、のぼりや横断幕を設置し、骨髄バンクの普及啓蒙活動を行いました。また、V.LEAGUE ファイナル名古屋大会、グランドファイナル東京大会の会場内では、現役選手による募金活動を行い、募金総額は 68,275 円となりました。今回の募金については、すべて日本骨髄バンクに寄付させていただきました。

② 復興応援 V.LEAGUE フェスティバル in 陸前高田

Vリーグ機構では 2011 年 3 月に発生した東日本大震災について、「恒久的復興支援活動」を宣言し、その活動を続けています。その活動の一環として、2018 年 8 月 4 日・5 日には、「復興応援 V.LEAGUE フェスティバル in 陸前高田」を実施しました。V.LEAGUE に所属する選手・スタッフの男女計 26 名(21 チーム)が、市長訪問、奇跡の一本松の見学、地元小学生との交流イベント(バレー教室・サイン会)、男女の公開試合を行いました。

③ アンチ・ドーピング推進活動

2014/15 シーズンより Vリーグ機構と公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(JADA)は、アンチ・ドーピングの推進ならびにメッセージ発信に関し協働展開しております。2018-19 シーズンも全国各地の V.LEAGUE 大会の会場にて会場内にバナーを設置しました。また、2019 年 4 月 9 日(火)、Vリーグ機構と公益財団法人日本バレーボール協会と JADA とスポーツの基盤となる「フェアネス(公平さ・公正さ)」の推進を目的とし、ロールモデルアスリートによるメッセージを収録した「FAIR PRIDE アスリートインタビュー」を協働して制作し、久光製薬スプリングス・石井優希選手、パナソニックパンサーズ・福澤達哉選手がアスリートインタビューを受けました。加えて、JADA の新ロゴ・スローガンであり、『FAIR PRIDE(フェア・プライド)』の啓発の一環として V.LEAGUE オールスターゲームでは、新ロゴが掲載されたステッカーの配布や啓発をするためのロゴボードを選手が持った集合写真を撮影しました。

今後とも Vリーグ機構と JADA は、スポーツに関わるすべての人たちが、互いに尊重し合いながらフェアネスの精神にプライド(信念・誇り)を持って参画するアンチ・ドーピング活動の推進と、フェアでクリーンな環境でうまれるスポーツの価値の発展に貢献します。

(9) 普及活動

① V・明日夢(みらい)プロジェクト

「V・明日夢(みらい)プロジェクト」は、2012 年 11 月に東京都でスタートし、全国で順次開催してきましたが、これまでの 6 年間で 283 回のバレーボール教室を行い、2 万 8 千人を超える子供たちにバレーボールの楽しさを伝えていきます。

□「V・明日夢プロジェクト」バレーボール教室

全国 35 会場で行われたバレーボール教室は、ビジネスブレイン太田昭和協賛、セイカスポーツクラブなどの主催で行われ、小中高生や家庭婦人など延べ 3,723 名が、講師は延べ 94 名が参加しました。

□日清製粉グループ presents V・明日夢プロジェクト

DIVISION1 の協賛社である日清製粉グループ様が、高校バレーボール部を応援する新しい試みを行い、全国から抽選で敦賀高校(福井県)と大垣養老高校(岐阜県)の2校が選ばれました。

□日野市立三沢中学校女子バレーボール部 with V・明日夢プロジェクト

東京都日野市からの依頼を受け、V・明日夢プロジェクトでは 2018 年 7 月～2019 年 2 月までの期間、三沢中学校への部活動指導を 15 回行いました。また 2019 年 4 月からも三沢中学校への部活動指導を継続して行っており、4 月～6 月で 6 回行いました。

②2018Vリーグジュニア選手権大会

Vリーグ機構では、バレーボール人口減少への対策として、また未来のVリーグ選手を数多く輩出するため、Vリーグチームのジュニアチームの創設ならびに育成促進に取り組み、その一環として、2015 年度よりVリーグジュニア選手権大会を開催しております。第 4 回大会となった今年度は 2018 年 8 月 25 日ハンナリーズアリーナ(京都府京都市)、26 日大山崎町体育館(京都府大山崎町)にてVリーグ男子チームのジュニア 16 チームで開催しました。出場チーム数を 12 から 16 へと増やし、また開催地の地元チームも加わるなど、前回大会よりも更にレベルの高い大会となりました。

(10)研修会・委員会活動

①プレーヤーズミーティング・若手研修会

プレーヤーズミーティングにはVリーグ各チームから 45 名(45 チーム)、若手研修会には 40 名(24 チーム)が参加しました。まず、両研修会合同で新生 V.LEAGUE についての講演に基づくグループワークを行いました。その後、プレーヤーズミーティングではチームビルディングについての講演やグループワークを行った後に、JVA 審判規則委員会との意見交換会などを行いました。若手研修会では、SNSやメディア対応に関する講演を行った後に、審判規則委員会からルールの確認等を行いました。

開催日: 2018 年 6 月 9 日(土)11:00～17:00

会場: TKP 八重洲カンファレンスセンター(東京都中央区)

出席対象者: Vリーグ各チーム代表選手とVリーグ所属 3 年目までを目安とした若手選手

②2018-19V.LEAGUE キックオフミーティング・JURY 会議

昨年度まで『開催地・チーム合同会議』と称して開催していた会議名称を今年度より『キックオフミーティング』と改め、V.LEAGUE 大会の運営に関する最終確認を行いました。また、今年度はキックオフミーティングに引き続き、JURY 会議を開催しました。

<キックオフミーティング>

開催日： 2018年7月21日(土)12:30～17:00
会場： TKP 八重洲カンファレンスセンター(東京都中央区)
出席対象者： V.LEAGUE 担当者、JVA、都道府県バレーボール協会、全国ブロック理事長、JURY など

<JURY 会議>

開催日： 2018年7月22日(日)9:30～16:30
会場： サントリー研修センター夢たまご(神奈川県川崎市)
出席対象者： JURY

③レフェリークリニック

Vリーグチームの監督とJURY、Vレフェリーが一堂に会し、2018-19シーズンの運用の重要事項を確認するレフェリークリニックを開催しました。

開催日： 2018年9月8日(土)12:30～17:00
会場： 豊田合成株式会社サンコートイースト(愛知県稲沢市)
出席対象者： JURY、Vレフェリー、V.LEAGUE チーム監督

④ゲームコーディネーターミーティング

今年度から新設し主にVリーグ大会の競技以外部分の全体のコントロールを行う、『ゲームコーディネーター』が集まり、その役割と今シーズンの運用等について確認を行いました。

開催日： 2018年9月29日(日)13:30～17:00
会場： Vリーグ機構会議室(東京都中央区)
出席対象者： ゲームコーディネーター

⑤各種委員会活動

Vリーグ機構の委員会は、理事会・運営会議・代表幹事会等のVリーグ機構主要会議により発議発案された課題や問題など、主にVリーグ機構運営上の重要問題に関して会長が諮問するテーマについて、理事・チーム代表・事務局・外部有識者などが委員となり、研究内容・方向性・一定の結論などを運営会議ならびに各 DIVISION 会議で報告・提案や理事会・会長に答申する役割を担っています。

主要な小委員会として、「コンプライアンス委員会」、「技術情報委員会」、「規約委員会」などがあります。また、新生 V.LEAGUE からライセンス制度を採用したことに伴い、ライセンス交付可否と申請に関する審査・ライセンス交付規則改訂に関する議論を行う、「ライセンス審査委員会」も活動を行いました。

(11)助成金

独立行政法人日本スポーツ振興センターより、我が国における国際競技力の向上を期すための国の助成金制度「競技強化支援事業助成金(国庫基金)」(2003年度～)および「スポーツ振興くじ助成金」(2011年度～)の交付を受けています。今年度については、両助成金で 66.7 百万円の交付を受け、マネジメント機能強化、研修会や

DIVISION1 の活性化及び DIVISION2・3 の強化育成・活性化及びVリーグジュニア選手権の開催に活用しました。今年度までの交付累計受入額は 512.3 百万円に達しています。

今後とも制度の主旨に沿った有効活用を心がけ、改善改革に努め、組織基盤の強化を図り、バレーボール界の普及・発展に邁進してまいります。

(12)協賛金

今シーズンも DIVISION1 及び V.LEAGUE サマーフェスティバル、V.LEAGUE オールスターゲームへの多くの企業より協賛を頂くことができました。

協賛いただきました各企業の皆様と、お世話になりました株式会社電通ならびに排球堂マーケティング株式会社に厚く御礼申し上げます。

今シーズンよりスタートした新生 V.LEAGUE ではチームが主体となり運営を行うリーグとして、大きな一歩を踏み出すことができたと同時に集客面や経営面では課題が残りました。今シーズンの反省を踏まえて、来るべき 2019-20 シーズンは「ファンファースト」なリーグを追求し、より多くのお客様に会場にご来場いただくことを目指します。

Vリーグ機構としましては、公益財団法人日本バレーボール協会加盟団体として、都道府県バレーボール協会他関係諸団体との協力関係にも尚一層の緊密化を図り、2019-20 シーズン終了後に控えた 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の盛り上げに寄与するとともに、社員各位の期待に応えてまいり所存です。

社員の皆様におかれましては、引き続き格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

3. 社員一覧

*社員名、チーム名は2019年6月30日現在（順不同）

社員名	チーム名	区分	基金の口数	基金の額（円）
公益財団法人日本バレーボール協会			12	6,000,000
株式会社ウォーク	岡山シーガルズ	女子	1	500,000
サントリーホールディングス株式会社	サントリーサンバーズ	男子	1	500,000
株式会社デンソー	デンソーエアリービーズ	女子	1	500,000
東レ株式会社	東レアローズ	男子	1	500,000
	東レアローズ	女子	1	500,000
TG SPORTS 株式会社	豊田合成トレフェルサ	男子	1	500,000
日本たばこ産業株式会社	JTサンダーズ	男子	1	500,000
	JTマーヴェラス	女子	1	500,000
日本電気株式会社	NECレッドロケッツ	女子	1	500,000
久光製薬株式会社	久光製薬スプリングス	女子	1	500,000
日立オートモティブシステムズ株式会社	日立リヴァーレ	女子	1	500,000
株式会社ブレイザーズスポーツクラブ	堺ブレイザーズ	男子	1	500,000
パナソニック株式会社	パナソニックパンサーズ	男子	1	500,000
一般社団法人上尾中央医科グループ協議会	埼玉上尾メディックス	女子	1	500,000
株式会社大野石油店	大野石油広島オイラーズ	女子	1	500,000
近畿クラブ	近畿クラブスフィード	男子	1	500,000
警視庁特科車両隊	警視庁フォートファイターズ	男子	1	500,000
株式会社ジェイテクト	ジェイテクト STINGS	男子	1	500,000
医療法人青雲白鷺会三好内科・循環器科医院	大分三好ヴァイセアドラー	男子	1	500,000
大同特殊鋼株式会社	大同特殊鋼レッドスター	男子	1	500,000
一般社団法人つくばユナイテッドサンガイア	つくばユナイテッド Sun GAIA	男子	1	500,000
医療法人社団天宣会	柏エンゼルクロス	女子	1	500,000
東京フットボールクラブ株式会社	FC 東京	男子	1	500,000
トヨタ自動車株式会社	トヨタ自動車サンホークス	男子	1	500,000
	トヨタ自動車ヴァルキューレ	女子	1	500,000
トヨタ車体株式会社	トヨタ車体クインシーズ	女子	1	500,000
東京ヴェルディ株式会社	東京ヴェルディ	男子	1	500,000
富士通株式会社	富士通カワサキレッドスピリッツ	男子	1	500,000
一般社団法人 KUROBE アクアフェアリーズ	KUROBE アクアフェアリーズ	女子	1	500,000
株式会社 PFU	PFU ブルーキャッツ	女子	1	500,000
NPO 法人阪神バレーボールコミュニティ	兵庫デルフィーノ	男子	1	500,000
株式会社きんでん	きんでんトリニティーブリッツ	男子	1	500,000
東京トヨペット株式会社	トヨタモビリティ東京スパークル	男子	1	500,000
グリーン・サポート・システムズ株式会社	GSS 東京サンビームズ	女子	1	500,000
ぎふ農業協同組合	JA ぎふリオレーナ	女子	1	500,000
NPO 法人アザレア・バレーボール振興会	埼玉アザレア	男子	1	500,000
株式会社 VC 長野クリエイティブスポーツ	VC 長野トライデンツ	男子	1	500,000
一般社団法人ブレス浜松	ブレス浜松	女子	1	500,000
株式会社信州スポーツプロモーション	長野 GaRons	男子	1	500,000
株式会社 VOREAS	ヴォレアス北海道	男子	1	500,000
株式会社ヴィアティン三重ファミリークラブ	ヴィアティン三重	男子	1	500,000
NPO 法人 NBK dreamers	奈良ドリーマーズ	男子	1	500,000
株式会社群馬銀行	群馬銀行グリーンウイングス	女子	1	500,000
株式会社プレステージ・インターナショナル	プレステージ・インターナショナル アランマーレ	女子	1	500,000
廣田観光株式会社	大阪スーペリアーズ	女子	1	500,000
株式会社姫路ヴィクトリーナ	ヴィクトリーナ姫路	女子	1	500,000
合計	(44 法人) (46 チーム)		58	29,000,000

4. 役員一覧

2019年6月30日現在

代表理事 (会長)	しまおか けんじ 嶋岡 健治	1949年(昭和24年)5月9日生 10期理事(副会長)、第11期～13期代表理事会長 (公財)日本バレーボール協会会長	第
理事 (副会長)	みよし とおる 三好 徹	1947年(昭和22年)4月15日生 第2期～第13期理事 三好総合法律事務所所長	
理事 (副会長)	かしわき ひとし 柏木 斉	1957年(昭和32年)9月6日生 (公財)日本バレーボール協会理事 ㈱オフィスHM2代表取締役、元㈱リクルートホールディングス代表取締役社長	
理事	かやしま あきら 萱嶋 章	1957年(昭和32年)10月4日生 第8期～第13期理事 久光製薬㈱上席執行役員、久光製薬スプリングス部長	
理事	まつおか ひろたか 松岡 宏高	1970年(昭和45年)1月22日生 第10期～第13期理事 早稲田大学教授、ホッケー・ジャパンリーグ理事	
理事	おき たかお 沖 隆夫	1978年(昭和53年)5月1日生 第12期～第13期理事 一般社団法人日本バレーボールリーグ機構事務局長	
理事	ゼッターランド, ヨーク, カリン	1969年(昭和44年)3月24日生 第12期～第13期理事 (有)オフィスブロンズ取締役社長、(公財)日本スポーツ協会常務理事 (公財)東京オリンピック・パラリンピック組織委員会理事	
理事	はやの ようじ 早野 容司	1960年(昭和35年)3月3日生 第6期～第11期監事、第12期～第13期理事 ㈱ジェイテクト営業本部東日本支社支社長、ジェイテクトSTINGS GM	
理事	やまもと みちひこ 山本 道彦	1966年(昭和41年)9月1日生 第12期～第13期理事 富士通コネクテッドテクノロジーズ㈱ 総務人事統括部長代理 兼 人事部長 富士通カワサキレッドスピリッツ監督	
理事	おおぼやし もとこ 大林 素子	1967年(昭和42年)6月15日生 ㈱ホリプロ、スポーツキャスター オリンピックムーブメントアンバサダー	
理事	くにぶ ひろゆき 國分 裕之	1958年(昭和33年)4月13日生 全日本空輸㈱ 取締役 常務執行役員 (公財)日本バレーボール協会広報委員会委員長	
理事	さきた よしと 迫田 義人	1948年(昭和23年)4月11日生 (公財)東京都バレーボール協会副会長 (公財)東京都体育協会 理事	
理事	なかの たいざぶろう 中野 泰三郎	1947年(昭和22年)3月11日生 第1期～第5期理事(第4期～第5期副会長) ㈱タイアップ 代表取締役社長、元(公財)日本バレーボール協会代表理事	
理事	にしお ひろき 西尾 博樹	1965年(昭和40年)4月18日生 プレスステージ・インターナショナルアランマーレ部長	
監事	ながた まさと 永田 将人	1958年(昭和33年)10月29日生 第11期～第12期理事 ㈱デンソー 人事部担当部長、デンソーエアリービーズ部長	
監事	よこい としひろ 横井 俊広	1960年(昭和35年)3月8日生 TG SPORTS㈱ 代表取締役社長 豊田合成トレフェルサ SGM	